



NIHONMIZUKIKOU

日本水機工株式会社

2023年 SDGs 報告書



THE GLOBAL GOALS



1 貧困をなくそう



あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

めざす姿

カンボジアをはじめとした途上国の貧困を主に取り組んでいます。未来の人づくりを目指し、寄付や子ども食堂を通して「誰一人取り残さない」支援活動を継続的に取り組む。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
協力業者含めチャイルドスポンサーシップへの参加	継続支援の実施	継続	～2030年
協瑞穂市内にて毎月1回弊社主催で様々なパートナーシップと共に子ども食堂「みずいる食堂」を開催	継続支援の実施	12回/年	～2023年
防災備蓄を購入し「子供の未来応援基金」へ寄付、防災備蓄品を消費期限前に備蓄品を寄付することで食品ロスを防ぐ	食品ロス削減の実践 備蓄品の寄付	継続	～2028年
自動販売機で購入の度に「JHP・学校をつくる会」へ寄付	継続支援の実施	493円	～2023年

チャイルドスポンサーシップへの参加 「JHP・学校をつくる会」へ寄付



チャイルドスポンサーシップは継続できている。定期的にチャイルドより手紙が届いています。また、「JHP・学校をつくる会」への寄付では年間で493円の寄付が出来た。（社内報にて報告）

「みずいる食堂」の開催



毎月1回開催継続できている。5月には夢フェスに協賛、出店、10月はMIZUフェスを主催、11月にはみずほヴェロフェスタに参加出店とみずいる食堂の啓発活動も定期的に行っている。みずいる食堂の予約もInstagramより大幅に増え、広く認知されつつある。

5 ジェンダー平等を
実現しよう



ジェンダー平等を達成し 女性の参画と平等を確保する

めざす姿

積極的な女性管理職の雇用、ライフステージの変化に応じて働き方を柔軟に変化させる等、誰もが平等に働き続けることができる職場環境づくり、企業風土の醸成の観点からの様々な取り組みを推進していく。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
子育て支援休暇、介護休暇 各10日付与	取得率向上の 環境整備	取得率0%	～2025年
協力業者含めた月1回の社内研修 及び外部研修の実施	定期的な開催 研修レポート回収	6回/年	～2023年
積極的な女性管理職登用を図るため リーダー候補者	人事評価制度策定	運用開始	～2023年

子育て支援休暇、介護休暇 各10日付与

2023年度の取得率は0%、今後は子育て支援休暇、介護休暇、特別休暇を合わせた休暇制度（日数に定めなし）に移行していく予定。

社内研修 及び外部研修の実施

年間6回開催、内1回は外部から講師派遣で講習を行った。研修レポート等の回収は行えてない。形態について引き続き工夫していくことが課題。



女性管理職登用を図るため リーダー候補者

2023年より人事評価制度を構築し、運用を開始した。今後も事業の変化や組織の変化、会社の成長に合わせ人事評価制度の見直しを行って行く。

8 働きがいも
経済成長も



完全かつ生産的な雇用と 働きがいのある仕事を実現し 安心安全な労働環境を促進する

めざす姿

全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境、サポート体制を整備し社員がいきいきと長く働き続けるために、仕事とさまざまなライフイベントの両立を支援する環境づくりに取り組む。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
柔軟な働き方を尊重し ワークライフバランスを推進 (社内キッズスペースの設置・時短勤務)	個々における 仕事量の適正化	継続	～2025年
ポジティブ・オフ（前向きな休暇） 制度として入社時10日の特別休暇付与や 会員制施設との提携	取得率向上の 環境整備	取得率31%	～2023年
資格取得時の受験費用全額補助	資格の取得推進 見える化を行う	23資格/年	～2023年
従業員の健康保持・増進 健康診断やインフルエンザ等の 予防接種の費用補助	継続的な支援	継続	～2030年
外国人技能実習生や外国人労働者を 積極的に雇用、生活支援・指導を行い 安心安全な労働環境を促進する	継続した外国人 労働者の雇用促進	2人雇用	～2030年

入社時10日の特別休暇付与

2023年度の特別休暇取得率は31%、今後は子育て支援休暇、介護休暇、特別休暇を合わせた休暇制度（日数に定めなし）に移行していく予定。

資格取得時の受験費用全額補助

年間で18資格（1人1資格）という目標に対して、フルハーネス型安全帯使用作業特別教育修了、3名、足場の組立て等特別教育修了、3名、テールゲートリフターを使用して荷を積卸す作業、18名でした。2024年も年間で1人1資格習得していけるよう推進を図る。（社内報にて常時報告）

インフルエンザ等の予防接種の費用補助

継続的な費用補助が行えている。

外国人労働者や技能実習生を積極的に雇用

2023年10月に2名の技能実習生を受け入れ、生活支援、指導など問題なく行えている。今後も積極的な受け入れを継続していく。



持続可能な消費・生産形態を 確実にする

めざす姿

様々なインフラ建設事業を通じて、既存のものを補修、補強し長寿命化し今後も社会へ貢献をしていく。また、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅な削減に取り組む。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
工事で発生した汚水は浄化処理をし可能な限り再利用を行う	継続的な濁水処理	継続	～2030年
アスベスト建材の除去・解体 健康や環境への影響を最小限にする	岐阜県アスベスト 濃度基準に準ずる	継続	～2030年
ぎふ・ロード・プレーヤーとして 道路美化に努める	道路美化に 努めた回数	3回/年	～2023年
交通インフラにおいて、既存のものを 補修、補強し長寿命化する	継続した施工工事	利益率1.41% アップ	～2030年

「ぎふ・ロード・プレーヤー」道路美化に努める

4月、6月、10月に行えた。
今後も年間計画を立て進めていく。

交通インフラを長寿命化する



一年を通じて日本中の高速道路上及びその橋脚・橋台の劣化コンクリートを超高压水により除去し、尚且つ、使用済水(汚水)を濁度・pHを基準値まで処理することで雨水として再利用可能な水質まで戻し『つくる責任・つかう責任』を果し続けてきた。



災害や自然災害に対する レジリエンスと適応力を強化する

めざす姿

事業継続計画(BCP)の推進を通して防災支援、照明のLED化、太陽光パネルの設置エアコン温度の適正化、さまざまな対策を実践し、気候変動および自然災害に対する、強靭性(レジリエンス)強化に取り組む。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
自然災害等の緊急事態に備え災害講習	講習会を開き 社内で共有	—	～2023年
災害時、近隣住民の救助や避難場所の 提供、電気の供給を可能にする	社内防災研修の実施	—	～2023年
自家用車としてエコカーを購入する 社員に補助金の支給	SDGsの社内浸透	継続	～2030年
コーヒーを飲む度に緑の募金へ寄付	社内報にて 見える化を図る	780円	～2023年

緊急事態に備えの災害講習、近隣住民の救助や
避難場所の提供、電気の供給を可能にする

災害講習、防災研修などの実施出来なかった。年1回の
研修が実施出来るよう年間スケジュールに入れていく。

コーヒーを飲む度に緑の募金へ寄付



2023年の募金金額は780円、社内報
にて報告、今後も継続していく。

緑の募金とは??

緑の募金は、緑に関するボランティア活動を支援し、
国民参加の森林づくり運動として展開することによ
り、国内はもとより地球的規模で森林づくりを進める
ことを目的としています。「森林の整備」「緑化の推
進」「国際協力」などに活用されます。



持続可能な開発のための グローバル・パートナーシップを 活性化する

めざす姿

一時的な関係性ではなく、長期的なパートナーシップの構築を目指し、異なる技術や考え方などを新たな発想や技術に転換・変化・進展させ様々な発想を織り交ぜることにより、これまでにない新しい価値観を探求していく。

自社取り組み内容	項目評価	評価	期間
技能実習生を通して、開発途上国への技術の開発、移転普及を促進する	継続した技能実習生の雇用推進	—	～2030年
協力業者と共に民間企業としての役割を果たし、公官民との連携を深める	資質向上と知識及び技術の習得を図る	—	～2023年
子ども食堂「みずいる食堂」を通して様々な企業とパートナーシップを図り新しい価値観の探求	継続的な支援と新規事業	継続	～2028年
「こども110番の家」に参加し子どもたちが安心して暮らせる環境を確保する	地域とのコミュニケーションの活性化	継続	～2023年

協力業者と共に民間企業としての役割を果たし
様々な企業や団体、公官民との連携を深める

夢フェス～大切な人にありがとうを伝えよう、みずほヴェロフェスタ、ヒマラヤアウトドア館にてSDGsイベント、瑞穂市の社会実験、オータムフェス、クリスマスマーケットに参加、また地域のお祭り『野白新田ふれ愛フェスタ』にも参加しています。読売わたしの「KODOMO新聞コンクール」で岐阜県内2校の小学校にて出前授業を開催。ぎふし共育・女性活躍企業認定式、岐阜市男女共同参画優良事業者表彰、岐阜市健康経営優良法人2023年、SDGsゴールドパートナーにも認定され、様々な企業や団体との連携が深められた。

